

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



▲三十二団体
が出席して
開催された
連絡協議会。
要である。
くことが少
ない。重要
な見直し
国体や活動
見では各
会場の意

平成二十五年七月十二日は
第一回 尾張旭市
市民活動支援セン
ター 渋川福祉センター
連絡協議会
本日は旭市市民活動支援センターの会議室に於て、三十二団体の代表者が集まり、連絡協議会を開催しました。この日は、各団体の活動報告や、今後の活動計画について話し合いが行われました。また、市民活動支援センターの役割や、地域環境活性化協議会の活動についても話し合いが行われました。協議会は、午後二時から午後五時まで行われ、出席者は、三十二団体の代表者、市民活動支援センターの代表者、地域環境活性化協議会の代表者など、合わせて五十名ほどです。協議会は、市民活動支援センターの会議室で開催され、各団体の代表者が、自分の団体の活動について報告を行いました。また、今後の活動計画についても話し合いが行われました。市民活動支援センターの代表者は、市民活動支援センターの役割や、地域環境活性化協議会の活動についても話し合いを行いました。協議会は、市民活動支援センターの会議室で開催され、各団体の代表者が、自分の団体の活動について報告を行いました。また、今後の活動計画についても話し合いが行われました。市民活動支援センターの代表者は、市民活動支援センターの役割や、地域環境活性化協議会の活動についても話し合いを行いました。

Faceと考える



▲基本的には
「まちづくり」を
全団体が活
動すること
である。
協賛は約
5、6社に
参加する
つもり。
である。
協議会では
高橋氏
連絡協議
地域環境
会長

市民活動支援センター連絡協議会
の活動から注目を考へた場
合、協議会としての「柱」を
立て上げる必要がある。
活動については各団体での活動が
二つ三つ集積し成果を上げていく。
この冬は事業は継続していくは
当然であるが全体的に何を行
動としてつものにするか、これから
はそれが問題である。
これは非常に面白味と魅力的
魅力がある。
私は言葉があるので最終的に
は切り札として出すつもりだ。
これから各団体の活動現場を
見て、二つ三つ方向性の段階を登
っていくかなどである。
当面はPRの場を創ること
である。情報誌の意見がある
広報の立場を考へて行動する
ことも必要である。

